

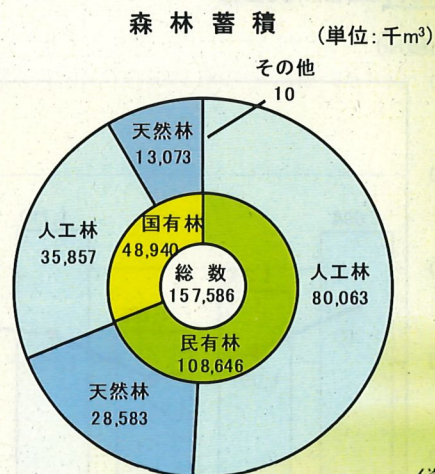
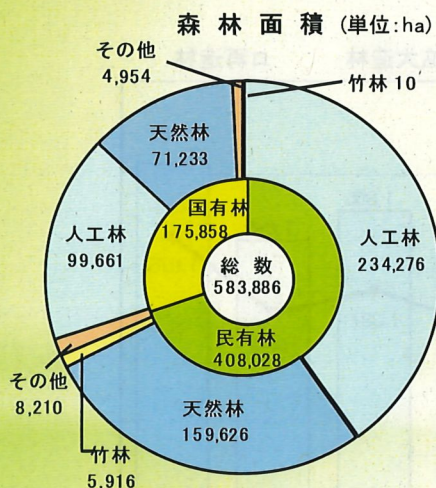
# 宮崎縣的森林・林業・木材産業

【2018年6月】

宮崎縣環境森林部  
山村・木材振興課  
宮崎杉木活用推進室

## I 森林資源

### 1 宮崎縣的森林面積和蓄積



(資料: 森林經營課)

\* 森林法第2條對象森林、國有林 平成28.3.31現在

○ 本縣的森林面積占據本縣土的75%，約584千公頃。其中70%為民有林，占408千公頃，國有林為30%，約176千公頃。

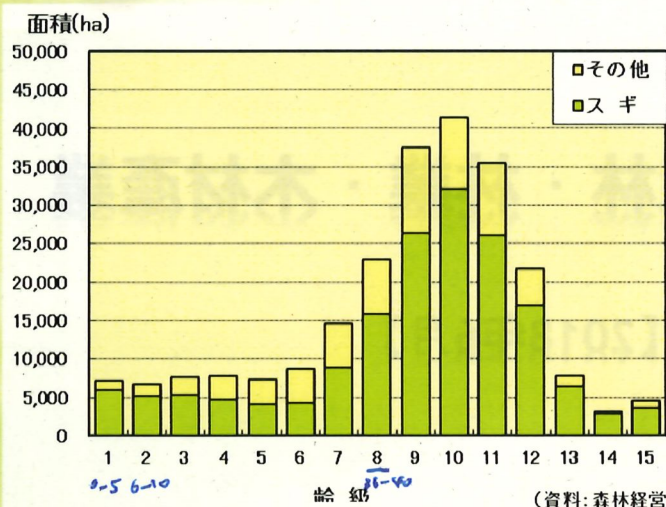
○ 戰後因為積極的擴大造林，人工林的面積達到了339公頃，其中民有林是民有林整體的58%，238公頃，國有林是國有林整體的57%，101公頃。

○ 森林蓄積是1億5,741萬m<sup>3</sup>，其中民有林的蓄積是1億903萬m<sup>3</sup>，國有林的蓄積是4,838萬m<sup>3</sup>，森林面積1公頃的蓄積量是268m<sup>3</sup>。

# 1 森林資源

## 2 宮崎縣的人工林齡級別面積 (民有林)

スギ 杉木



○ 人工林面積 (民有林) 的72%, 約168千公頃是杉木。

5年-11齡級

○ 8齡級(36年生)以上的杉木人工林有130千公頃, 占杉木人工林面積的77%, 可以采伐的部分正在增加。

○ 民有林的年間生長量是241萬 $m^3$ , 其中人工林的生長量是195萬 $m^3$ , 而杉木的生長量占據了其中的150萬 $m^3$ 。

胸徑約30-40cm

(資料: 森林經營課)  
\* 地域森林計畫 平成28331現在

参考 宮崎縣の森林の生長量 (單位: 萬 $m^3$ /年)

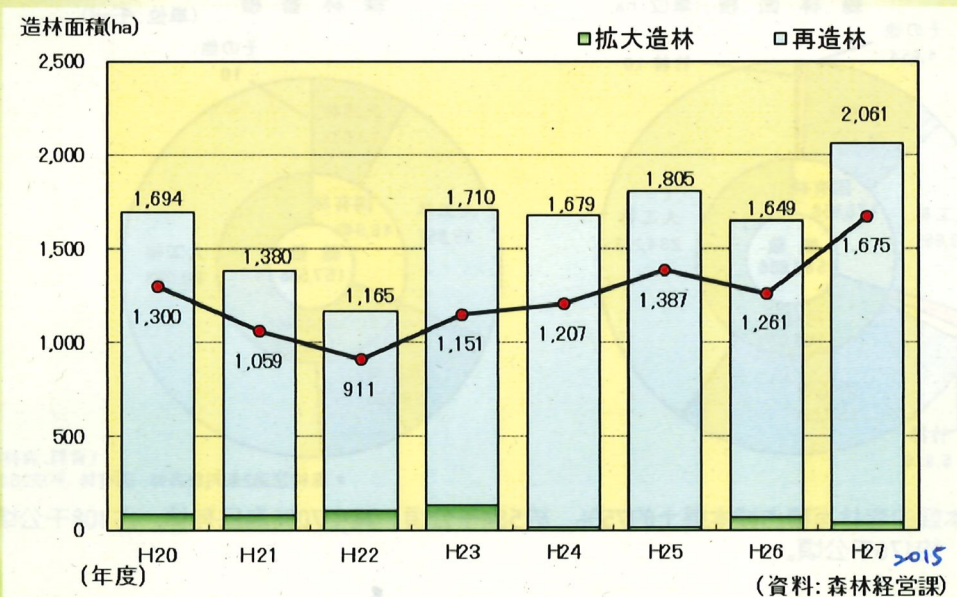
	全体	スギ	その他
民有林	241	150	91
国有林	110	65	45
計	351	215	136

3

→ 付採量限制在此以下

# 1 森林資源

## 3 人工造林面積的推移

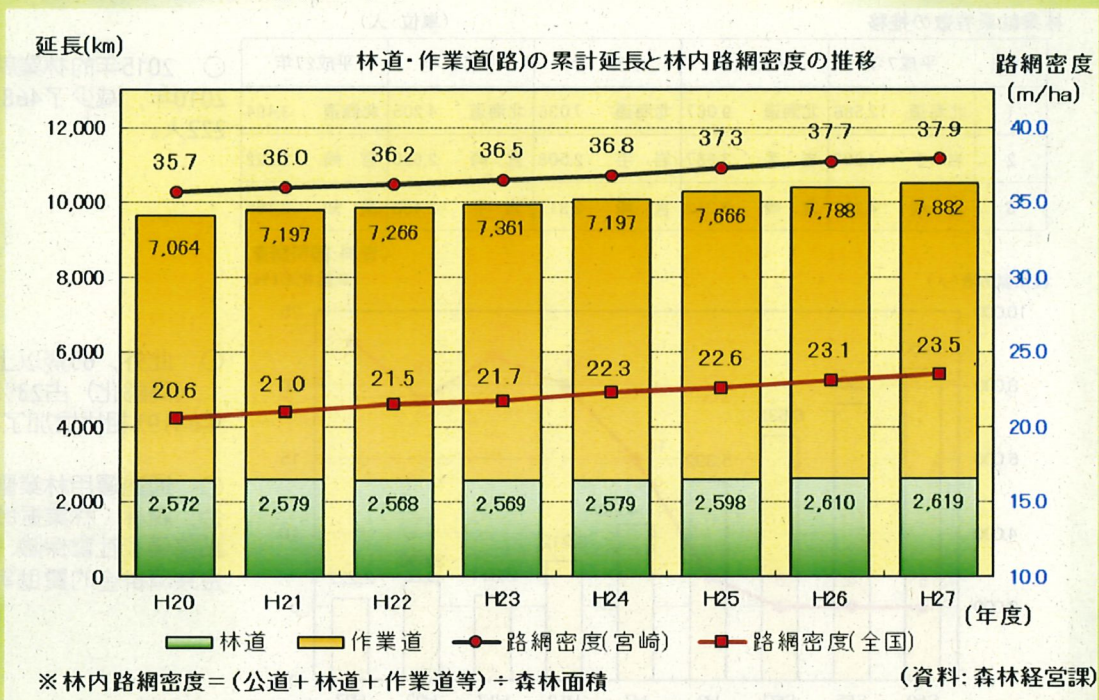


○ 2015年的人工造林面積是2,061公頃, 其中杉木占1,675公頃, 將近整體的81%。

○ 再造林面積是2,023公頃, 占據人工造林面積將近98%。

# I 森林資源

## 4 林内路網密度的狀況 (1)



○ 2015年度末の累計延長：林道2,619km，作業道7,882km。

○ 本縣的林内路網密度是37.9m/ha。(全國平均是23.5m/ha)

歐洲約 60m/ha<sup>5</sup>

# I 森林資源

## 4 林内路網密度的狀況 (2)

参考 林内路網密度

順位	林内路網密度(單位:m/ha)							
	24年度		25年度		26年度		27年度 2015年	
①	36.8	宮崎県	37.3	宮崎県	37.7	宮崎県	37.9	宮崎県
②	32.2	熊本県	32.9	熊本県	33.8	熊本県	34.6	長崎県
③	31.0	佐賀県	31.9	佐賀県	33.3	佐賀県	34.3	佐賀県

(資料: 森林経営課)

○ 2015年度末的林内路網密度，37.9m/ha是全國第一。

水土保持：地質類型未決定地產

民有林 由採木申請、政府補助。另、江崎町即鼓勵民有生產，本課業務存民有林的輔導。

## II 林業的驅動力

### 1 勞動力

林業就業者数の推移

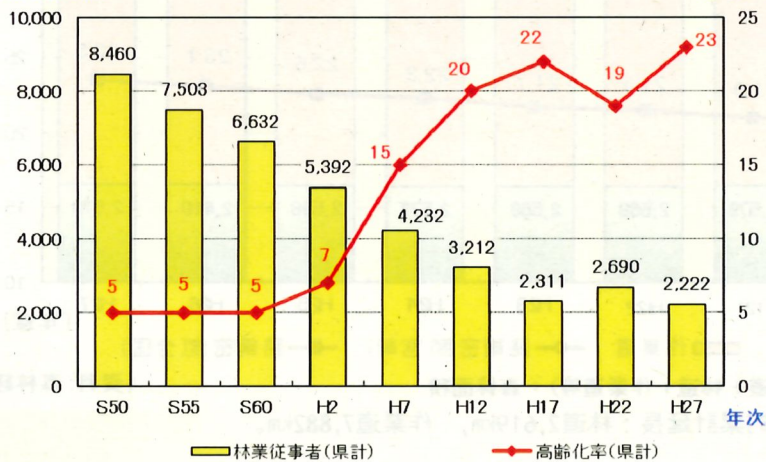
(単位:人)

順位	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
1	北海道 12,586	北海道 9,067	北海道 7,036	北海道 4,205	北海道 3,494
2	岩手 4,298	岩手 3,637	岩手 2,508	宮崎 2,690	宮崎 2,222
3	宮崎 4,232	宮崎 3,212	宮崎 2,311	岩手 2,433	高知 2,165

○ 2015年の林業就業者比起2010年, 減少了468人, 有2,222人。

(資料:国勢調査)

林業就業者(人)



○ 此外, 65歳以上の就業者(高齢化)占23%, 與2010年の19%相比增加了。

○ 通過運用林業驅動對策基金, 森林・林業振興基金等, 重點整備了社會保險、林業退職金共濟掛金の贊助等就業條件。

※高齢化率は、就業者総数に対する65歳以上の比率

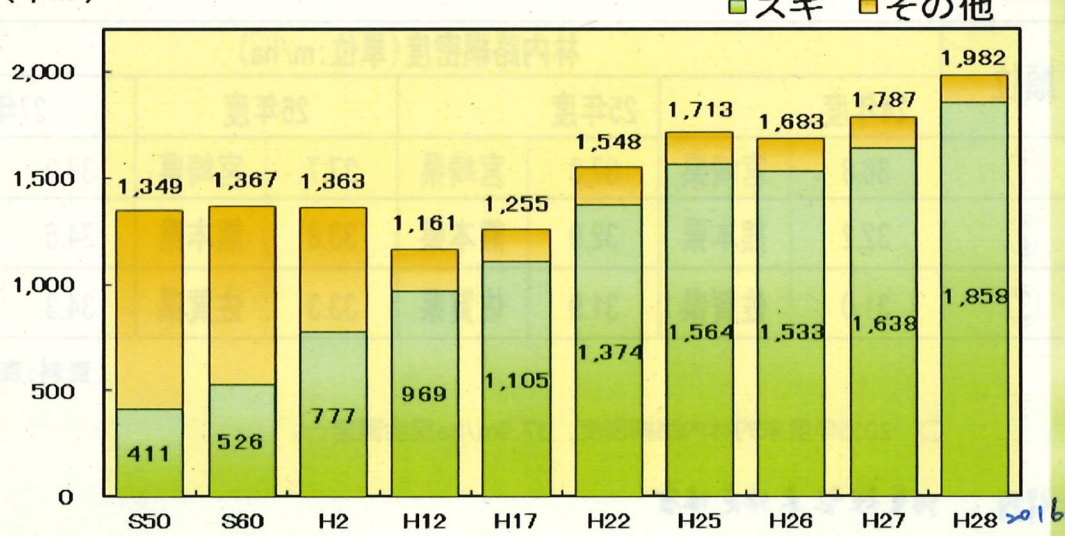
(資料:国勢調査)

## III 素材生産

### 1 素材生産量

#### ① 素材生産量の推移

(千m<sup>3</sup>)



(資料:農林水産省「平成28年木材統計」)

○ 2016年の素材生産量は198万2千m<sup>3</sup>。

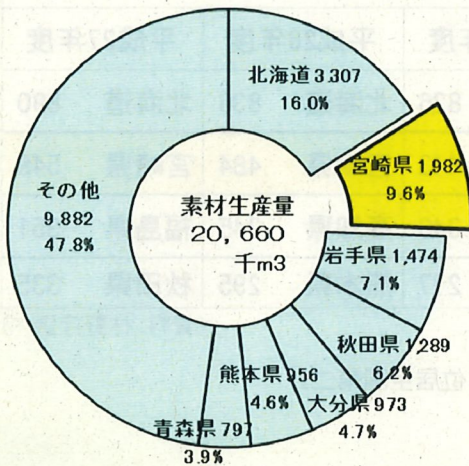
○ 素材生産量の94%は杉木。

### III 素材生産

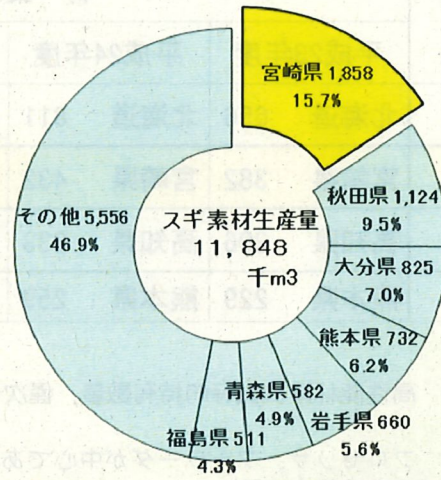
杉木素材生産量連続26年日本第一！

#### 1 素材生産量

##### ② 2016年の素材生産量



##### ③ 2016年の杉木素材生産量



(資料: 農林水産省「平成28年木材統計」)

○ 本縣的素材生産量僅次于北海道，位居第二。

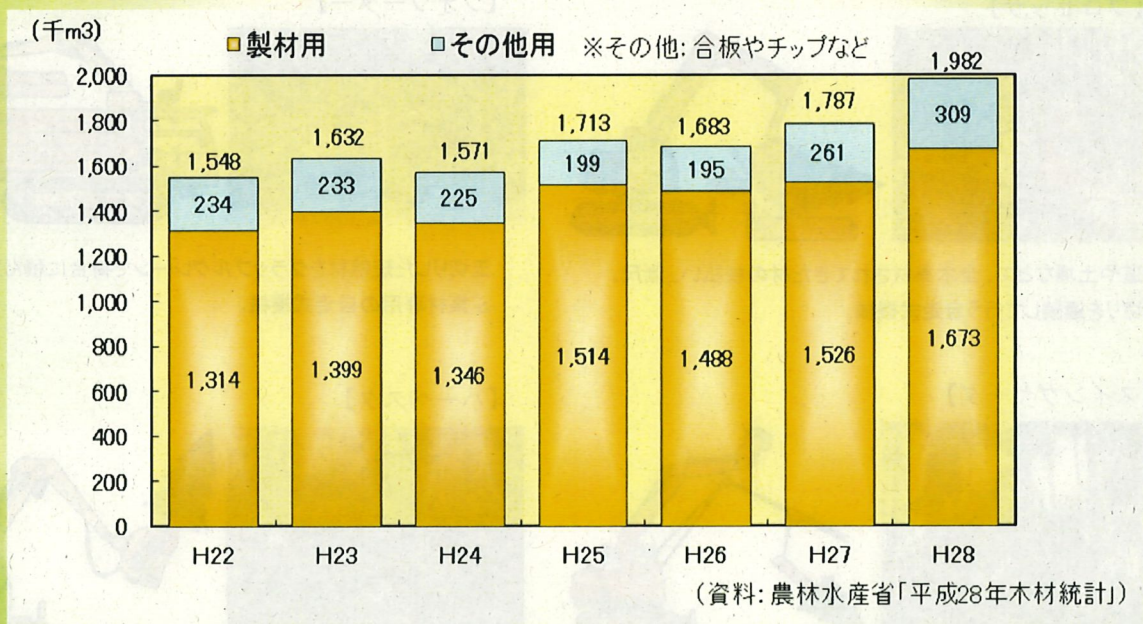
○ 198万2千m3の素材生産量之中，針葉樹占97.6%，193万4千m3。

○ 2016年，本縣的杉木生産量は185万8千m3，占全国生産量の15.7%。

○ 南九州4縣的杉木素材生産量は389万4千m3，占全国生産量の32.9%。

### III 素材生産量

#### 2 其他用途的素材的生产量



○ 2016年的制材用素材生産量占所有素材的84%，約167万3千m3。

### Ⅲ 素材生産量

#### 3 高性能林業機械等の持有状況

順位	林業機械（単位：台）									
	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
1	北海道	656	北海道	811	北海道	826	北海道	836	北海道	890
2	宮崎県	382	宮崎県	432	宮崎県	443	宮崎県	484	宮崎県	548
3	高知県	306	高知県	333	高知県	340	高知県	345	福島県	351
4	熊本県	229	熊本県	259	長野県	277	熊本県	295	秋田県	335

（資料：林野庁調べ）

- 高性能林業機械等の持有数量，僅次于北海道，位居全國第二。
- プロセッサ、フォワーダが中心である。  
《平成27年度内訳》  
プロセッサ：186台、フォワーダ：151台、スイングヤーダ：95台、  
ハーベスタ：78台、グラップルソー：18台、タワーヤーダ：5台、  
スキッダ：4台、その他：11台
- 目前正在推動宮崎縣林業勞動機械化中心的共同利用方式。  
（H29年3月：27台）

### Ⅲ 素材生産量

#### 4 主要の高性能林業機械

【プロセッサ】



林道や土場などで、全木集材されてきた材の枝払い、測尺、玉切りを連続して行う自走式機械。

【フォワーダー】



玉切りした短幹材をグラップルクレーンで荷台に積んで運ぶ集材専用の自走式機械。

【スイングヤーダ】



主索を用いない簡易索張方式に対応し、かつ作業中に旋回可能なブームを装備する集材機。  
建設用ベースマシンに集材用ウインチを搭載し、アームをタワーとして使用する。

【ハーベスタ】



従来チェーンソーで行っていた立木の伐倒、枝払い、玉切りの各作業と玉切りした材の集積作業を一貫して行う自走式機械。

## IV 製材加工

### 1 制材工廠的狀況

#### ① 制材工廠的數量

年 度	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
工場数	167	155	150	149	149	145

(資料:農林水産省「平成28年木材統計」)

- 2016年の制材工廠數量為145間，近年來數量增減幅度不大。
- 使用的素材，只用國產材：129工廠，只用外國素材：9工廠，兼用：6工廠。

#### ② 1 間工廠的指標 (2016年)

区 分	出力数	原木消費量	従業者数
全 国	126.3kw	3,363m <sup>3</sup>	5.7人
本 県	324.6kw	11,317m <sup>3</sup>	13.3人

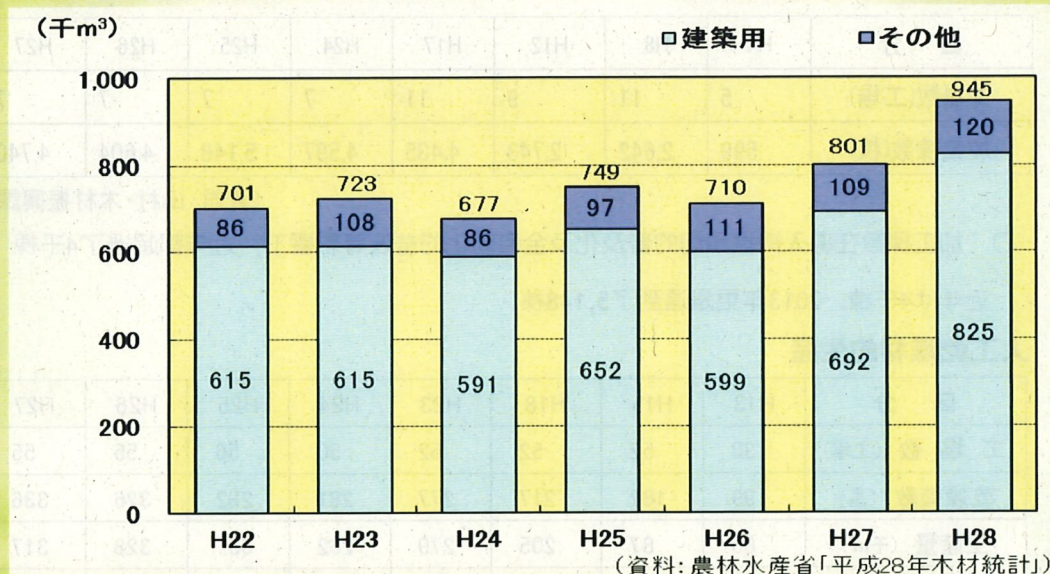
(資料:農林水産省「平成28年木材統計」)

- 本縣的1間工廠的輸出數是324.6kw (全國平均的約2.6倍)，原木消費量是11,317m<sup>3</sup> (同3.4倍)、
- 此外，若以輸出數為標準，達到原木消費量34.9m<sup>3</sup>/kw (同1.3倍)，便可促進工廠的大型化，近代化 (效率化)。

工廠數量也因而精減 13

## IV 製材加工

### 2 其他用途的產品的出貨量推移



- 制材品出貨量是945千m<sup>3</sup>，位居全國第二。(第一：廣島縣1,097千m<sup>3</sup>、第三：北海道881千m<sup>3</sup>)
- 建築用制材品占總出貨量的87%。
- 根據最近的統計，2014年的制材品的出貨額是416億円。

(資料:宮崎縣的工業 (2014年度工業統計))

## V 高次加工工廠

### 1 集成材（包括修正地板）工廠數量及生產量

区分	H15	H17	H19	H24	H25	H26	H27
工場数(工場)	10	10	8	7	9	9	10
生産量(m <sup>3</sup> )	16,972	19,652	23,116	33,961	39,258	34,993	31,455
うち構造用	3,292	6,525	9,301	22,999	28,273	24,798	20,237

(資料: 山村・木材振興課)

- 2015年度の集成材生産量大約是3万1千m<sup>3</sup>，與前年相比減少了10.1%。
- 根據近期的統計2014年的本縣集成材製造業的產品出貨額大約是38億円，比起卡年增加了9億円。(資料: 宮崎縣的工業(2014年度工業統計))

### 2 LVL（單板積層材）工廠數及生産量

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
工場数	1	1	1	1	1	1	1
生産量(m <sup>3</sup> )	10,650	10,650	12,100	13,750	16,600	16,654	14,260

(資料: 山村・木材振興課)

## V 高次加工工廠

### 3 機械預切工廠與其加工實績

区分	H4	H8	H12	H17	H24	H25	H26	H27
工場数(工場)	5	11	9	11	7	7	7	7
加工棟数(棟)	599	2,642	2,743	4,435	4,597	5,148	4,604	4,740

(資料: 山村・木材振興課)

- 加工棟數在導入機械預切的普及化及全自動化的普及等影響下，近年都超過了4千棟  
近年は4千棟。2013年更是達到了5,148棟。

### 4 人工乾燥材的生産

区分	H13	H15	H18	H23	H24	H25	H26	H27
工場数(工場)	33	52	52	52	50	56	55	55
乾燥機数(基)	99	182	217	277	281	282	326	336
生産量(千m <sup>3</sup> )	65	87	205	279	262	331	328	317
うち建築用	60	80	166	207	196	252	266	253

(資料: 山村・木材振興課)

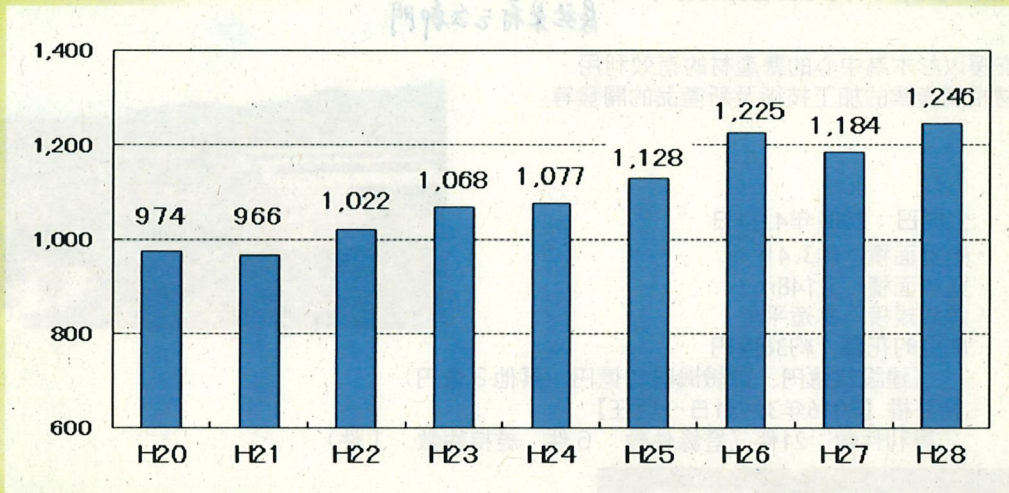
- 2015年的人工乾燥機數是336台，比前年增加了10台。乾燥材生産量是317千m<sup>3</sup>，比前年減少了3.4%。

- 乾燥材生産量的80%是用於建築。



## VI 木材的流通

### 1 原木市場吞吐量的推移



(資料: 山村・木材振興課)

- 原木市場主要篩選及集合原木，除了存貨功能，還有與信的功能。
- 2016年的原木市場吞吐量是124万6千m³、比前年增加了6万2千m³。
- 統計縣內16個市場，與本縣的製材用素材需要量的75.9%相當的量，也就是164万1千m³，正在流通中。

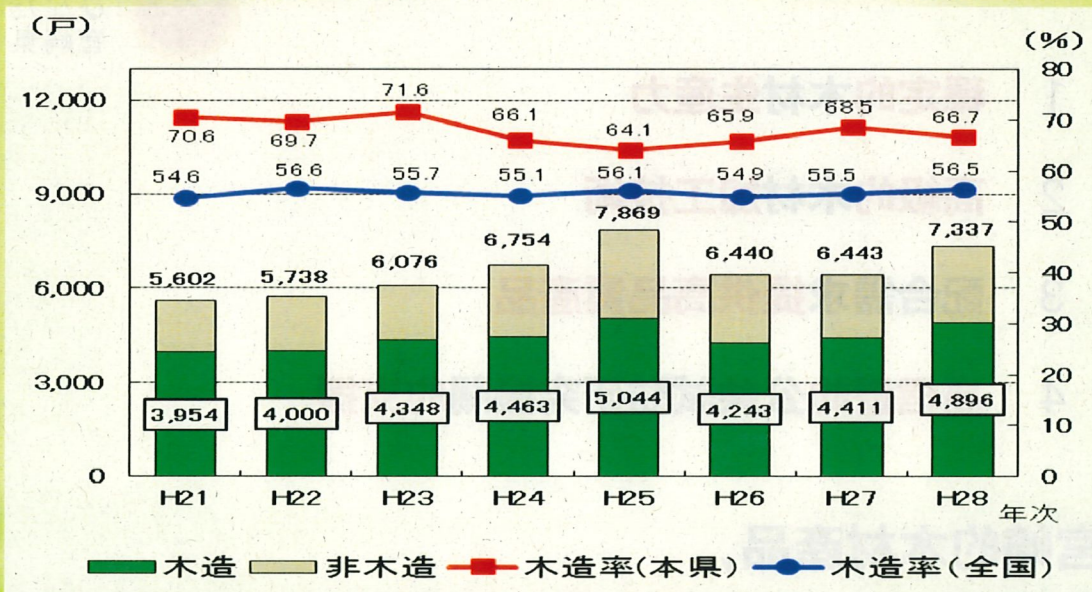
目前供需處於平衡狀態

17

挑戰：人口減少林的木材如何活用？尚在摸索

## VI 木材的流通

### 2 新設住宅着工戶數的推移



(資料: 国土交通省「住宅着工統計」)

- 2016年的本縣的新設住宅着工戶數是7,337戶，比前年增加了894戶。
- 木造率從全國平均56.5%增加了10.2%，達到了66.7。

18

## VII 公共的試驗研究機關

### 1 宮崎縣木材利用技術中心

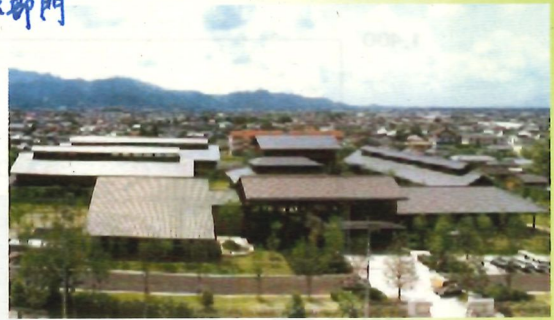
局長事務之公部門

#### ① 目的

全力支援以杉木為中心的縣產材的有效利用，提升縣內木材相關產業的加工技術及新產品的開發等。

#### ② 概要

- 公開日：2001年4月1日
- 敷地面積：約3.4ha
- 延床面積：5,148m<sup>2</sup>
- 建築規模：木造平屋
- 成立的花費：約36億日元  
(建設23億日元、實驗機器10億日元、其他3億日元)
- 特許權【2016年3月31日～現在】  
專利件數：21件 (登錄件數：6件、維持件數：1件)



#### ○建築物的特徵

活用木造建築的傳統技能、使用不含金屬物接合等最先端的木構造技術來打造縣內木造設施的模範建築。  
(研究棟內)

19

## VIII 宮崎縣的潛能



- 1 穩定的木材生產力
- 2 高級的木材加工技術
- 3 配合需求提供高品質產品
- 4 高信譽的公共試驗研究機關的支援

宮崎的木材產品，

供您安心使用！

梢  
木材的平作、思考、感覺、接觸

筆入式內題：喜歡何種樹(材)? 原因? 長出